

## ～競技者用～

### 1 競技者ができる感染予防対策概要

- 1) 3密を避けることを徹底する。
- 2) 個人でできる感染症対策（マスク着用・手洗い・うがい・咳エチケット・体調管理など）を徹底する。
- 3) 大会1週間前から当日、及び大会後2週間分の体調チェックを実施する。発熱などの症状があった場合は主催者に連絡する。

### 2 競技者における感染予防対策

#### 1) 来場方法

- ・マスクとハンドタオルを持参する。
- ・競技時刻に合わせて、来場する。

#### 2) 会場入り

- ・当日受付時には、体調管理チェックシートを提出（提出ない場合は競技場内への入場は不可。また競技者は出場を認めない。ただし、検温を受検し37度未満であれば入場・出場を認める場合がある）→IDカード受取→消毒→定められた入場口から入場する。  
（※チーム・学校の場合は代表者がまとめて提出してもよい）
- ・受付にて不確かな体調者がある場合は、その場で検温し、状況により参加を許可しない。
- ・再入場の際は、定められた入場口でIDカードを提示する。

#### 3) ウォーミングアップ

- ・ウォーミングアップは、個別で行う。
- ・リレーのウォーミングアップについては、会話は避け、最低限に留める。また、バトンの使用前後は、必ず手洗い・手指消毒の徹底をする。また、バトンパスを伴った練習をした場合は、手洗いだけでなく、洗顔も行う。

#### 4) 競技

##### (1) トラック種目

- ・受付時に、トラック競技は、シール式の腰ゼッケンを持っていき（リレーは最終走者のみ）、使い切りとする。処分は、選手が各自行う。
- ・1次招集後、選手各自で現地に移動し、2次コールを受ける
- ・競技終了後は、速やかに退場をする。
- ・呼吸が整い次第、マスクの着用をする。

##### (2) フィールド種目

- ・1次招集後、手洗いを必ずして現地に集合する。
- ・決められた時間、公式練習を行う。
- ・「やり」および棒高跳びの「ポール」について、できる限り、各自又は自チーム所有の物の使用とするが、やむを得ない場合（所有物がなく、競技場内の物を使用するなど）は、選手自らが試技の前後に手指消毒を行う。滑り止めは共用しない。
- ・ラウンド間については、できるだけ会話を避け、ソーシャルディスタンスを保ち、呼吸が整い次第、マスクを着用する。
- ・競技終了後は、速やかに退場をする。

#### 5) 更衣したもの

- ・その場に置いたり、他人のものと混じったりしないようにする。各自、袋を準備し、袋の中に更衣したものを入れる。忘れた場合のため、大会本部では袋を準備しておく。
- ・更衣したものの管理については、自己管理とする。

#### 6) 競技終了後（表彰終了後）

- ・速やかに退場、帰宅する。帰宅の際、商業施設等に立ち寄らず自宅に帰宅する。
- ・帰宅後、手洗い、うがい、洗顔、消毒（できれば入浴まで）をする。
- ・競技会後、2週間の体調管理・検温をお願いします。発熱等、症状が4日以上続く場合は必ず最寄りの開催自治体の衛生部局に報告し、大会主催者に報告してください。